
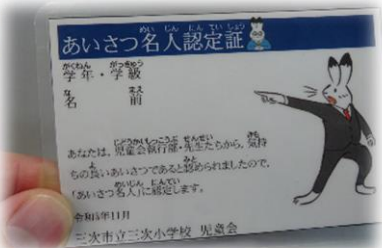
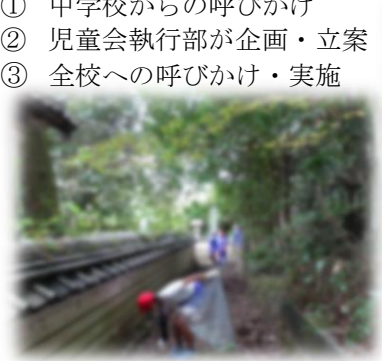



令和3年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立三次小学校	校長	大瀨 磨彦	生徒指導主事	陸田 良介
取組事例名		『学区ボランティア清掃』・『あいさつ名人』			
取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	2	「主体性・積極性」	3	自己肯定感の向上	1
取組のねらい					
『あいさつ名人』…あいさつの意義を理解させ、自分からあいさつをしようとする心を育成する。 児童相互による肯定的評価の機会を拡大し、自己有用感を育む機会とする。 『ボランティア清掃』…児童会の児童主体となる活動を推進する。					
取組の具体的内容			取組の創意工夫 『キーワード 児童の相互評価 児童主体の学区内連携』		
<p>『あいさつ名人』</p> <p>校内におけるあいさつがよくできる児童を選出し、全校朝会や放送などを通して月ごとに表彰する。</p> <p>① あいさつ名人を選出 ② 妥当性を担任等、他の職員と協議し決定 ③ 表彰</p>   <p>『ボランティア清掃』</p> <p>中学校区で生徒会・児童会が連携を取り合い、地域のためにできることを考え、全校で地域の清掃を実施。</p> <p>① 中学校からの呼びかけ ② 児童会執行部が企画・立案 ③ 全校への呼びかけ・実施</p>  			<p>「児童の相互評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分から気持ちの良いあいさつができる児童を児童会執行部が中心となって選出し、認定証を贈呈する。 ⇒自己肯定感の向上</li> <li>「あいさつ」をテーマにした全校朝会を実施し、本取組について周知した。その際、あいさつの意義や場面を考えさせた。また、名人見つけを高学年にも呼びかけ、全校を巻き込む取組につながった。 ⇒コミュニケーション能力の育成</li> <li>「児童主体の学区内連携」</li> <li>リモートを通して、中学校の生徒会・ボランティア委員会から、ボランティアの意義及びボランティア週間の呼びかけを受け、児童会行事としてのボランティア清掃を企画した。 ⇒主体性・積極性の向上</li> </ul>		
取組の成果と課題					
<p>『あいさつ名人』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の意識調査（1学期・2学期）を比較すると、「自分からあいさつをしている」と肯定的にとらえている児童は、71.8%⇒75.7%と増加した。</li> <li>認定証をもらうために意欲的にあいさつをする児童もおり、あいさつの習慣化につながっている。</li> <li>登校及び下校時のあいさつについては、習慣化している児童も多いが、普段の学校生活の中でのすれ違う先生や友達などへのあいさつが十分ではないと感じる。</li> </ul> <p>『ボランティア清掃』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会から児童会へと円滑に連携ができ、中学校区の小中連携のよい取組となった。</li> <li>今回のような生徒会と・児童会連携を定期的に行い、実際に交流したり、外部機関と連携したりすることで、学区を活性化できるような取組を仕組み、児童のコミュニケーション能力や社会参画への意識を高めていきたい。</li> </ul>					